

ヘレン・テラーとJ・S・ミル『自伝』

川 又 祐

- 1 はじめに
- 2 ミル『自伝』各種草稿
- 3 主にヘレンによる『自伝』校正
- 4 おわりに

Summary

1 はじめに

二〇一四年の日本大学法学部創設一二五周年記念事業に前後して、法学部図書館では、所蔵している貴重資料の書誌作成事業が本格的に開始されることになった。貴

重資料の一部は、すでに図書館ホームページと『日本大学法学部創設一二五周年記念特別展示図録』⁽¹⁾で紹介されている。またJ・S・ミル (John Stuart Mill, 1806-1873) や他の著名学者の書簡・草稿類については『ヨーロッパ政治経済思想の系譜——日本大学法学部図書館所蔵Groetius、D. Hume および J. S. Mill の書簡を中心として——』⁽²⁾が作成されている。筆者は二〇一五年、J・S・ミルの関連資料を法学部図書館で探している時に、ミルの『自伝』初版一点が所蔵されていることを確認していた。本書に関する当時の書誌は、ページ数について

ヘレン・テラーとJ・S・ミル『自伝』(川又)

三二四と記載されているごく簡単なものであった。ところがその後、ある古書店のカタログに「ミル自伝、一八七三年、初版一刷り、正誤表なし、vi、三二三ページ」という記載を見つけた。早速、筆者は図書館に対し

て、ページ数表記に誤りがあり、三二四ページではなく三二三ページではないか、と所蔵本書誌情報に関して検証を依頼した。その結果、筆者のもとには、ページ数表記に誤りはないとの回答と、表1のようなさらに詳細な新しい書誌が作成・送付されてきた。

表1 ミル『自伝』初版校正刷り製本

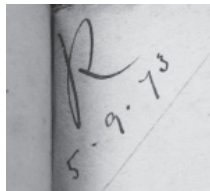
データ種別	図書
出版者	London : Longmans, Green, Reader, and Dyer
出版年	1873
本文言語	英語
大きさ	[4], 1-313, [1], 314, [1] p. ; 24 cm. (8vo)
一般注記	Signatures: π^2 B-U ⁸ X ⁴ [Y] ² P. 99, 100, 109, 110, blank P.313 ^V , p. 314 ^V , blank
著者標目	*Mill, John Stuart, 1806-1873
請求記号	J.S.Mill 7
書誌 ID	1000212761

(資料番号 : B0000551677%)

この日本大学法学部図書館が所蔵する三二四ページのミル『自伝』一八七三年版は——図書館への登録は、一九八二〔昭和五七〕年六月二四日である——、一体、何なのであろうか。表1の書誌によれば、本書は、ロンドンのロングマンズ社 (Longmans, Green, Reader, and Dyer) から出版された。本文は、折記号「 π 」、BからX、そして「Y」までの折丁で作られている。折丁H2とH7に該当するページ(九九、一〇〇ページ)そして一〇九、一一〇ページ)が空白となっている。折記号のない最後の「Y」二葉は、いずれも表ページ (recto、レクト) のみに印刷がなされていて、裏ページ (verso、ヴェルゾ) は空白となっている。この最後の二葉は白色のテープが補修のために糊付けされている。

折記号がつけられた、折丁のそれぞれ最初の表ページ(レクト)の左肩には、次の表2のように二行(二段)

表2 ミル『自伝』初版校正刷り製本、各折丁への書き込み

折記号	ページ数	書き込み
[π1]	表題ページ	R 73年9月○日
B1	p.1. 第1章	R 73年7月8日
C1	p.17	不明 73年不明
D1	p.33	R 73年7月15日
E1	p.49	不明
F1	p.65	R 73年7月16日
G1	p.81	R 73年7月31日
H1	p.97	R 73年8月1日
I1	p.113	R 73年8月6日
K1	p.129	R 73年8月6日
L1	p.145	R 73年8月7日
M1	p.161	R 73年8月7日
N1	p.177	R 73年8月7日
O1	p.193	R 73年8月27日
P1	p.209	R 73年8月27日
Q1	p.225	R 73年8月29日
R1	p.241	R 73年9月2日
S1	p.257	R 73年9月5日 
T1	p.273	R 73年9月5日
U1	p.289	R 73年9月5日
X1	p.305	R 73年9月○日
[Y1]	p.313	R 73年9月5日

ヘレン・テラーとJ・S・ミル『自伝』(川又)

四三(八六七)

表3 校正の順番

書き込み年月	校正の順番 (折記号)
1873年7月	BCDEFG
1873年8月	HIKLMNOPQ
1873年9月	RSTUX [Y]
	[π]

にわたって「R」と年月日の書き込みがある（折記号S1の画像参照）。残念ながら製本する過程で、当該書き込み部分は糊付けされてしまい、一部分判読ができなくなっている箇所もあり、表2では、それを「不明」あるいは「○」で示している。

書き込みの「R」は、おそらくRead（校正）の略号と推定される。つまり、S1の画像は、「校正、一八七三年九月五日」と読めるのである。日本大学法学部が所蔵するこの『自伝』は、折丁ごとの校正刷りを後に製本したものである。その証拠に、後述するように、校正刷りへの指示が随所に書き込まれている。従って、ここに表1、表2を「ミル『自伝』初版校正刷り製本」と題した理由がある。

これらの日付から、校正は、一八七三年七月八日以降二か月間をかけて、本文の折丁に従って行われている（表3を参照せ

図1 見返し部分の書き込み

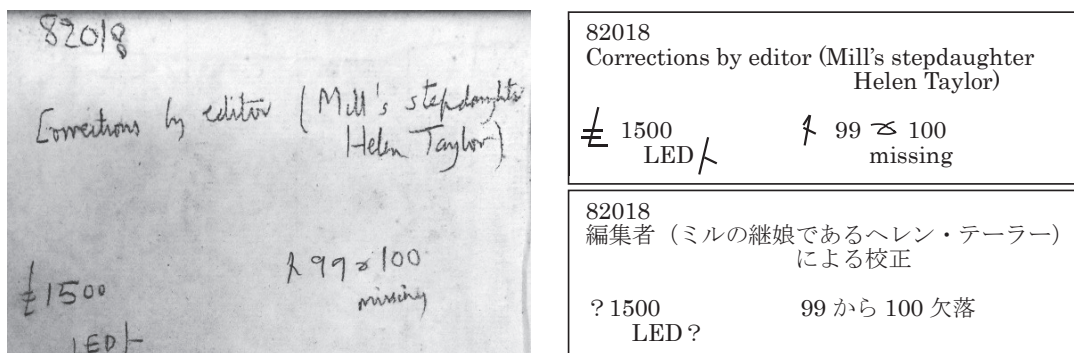
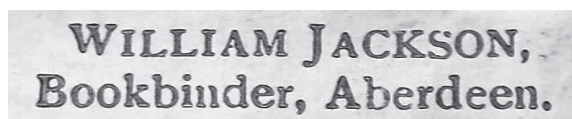


図2 ウィリアム・ジャクソン社のシール



よ)。そして最後に、表題ページが作成・校正されていったことが分かる。

これらの折丁は、それぞれ印刷用紙が異なっているで、印刷に時間差があったことが窺われる。さらに初版校正刷り製本では、空白の折丁H2とH7（九九と一〇〇ページの一葉と、一〇九と一一〇ページの一葉）もまた前後の印刷用紙とは別物である。そのため、これら二葉は、時間の経過とともに何らかの理由で折丁から欠落してしまっていたので、便宜的に別の用紙が補填されて製本が行われた、との推定が可能となるのである。

初版校正刷り製本の見返し部分には、図1のように、おそらくは古書籍商の筆跡と思われる鉛筆の書き込みがある。この書き込みがいつ行われたのか、またこれら数字や記号が何を意味するのかわからない⁽³⁾。そして裏の見返しの下部には、図2のような赤文字の“William Jackson, Bookbinder, Aberdeen.”のシールが貼られている。

筆者はその後、この初版校正刷り製本と『自伝』初版との比較を行うために、図書館に『自伝』初版購入を依頼した。新たに購入された『自伝』初版の書誌は、表4

表4 ミル『自伝』初版

データ種別	図書
出版者	London : Longmans, Green, Reader, and Dyer
出版年	1873
本文言語	英語
大きさ	vi, 313, [3] p. ; 23 cm. (8vo)
一般注記	Signatures: [A] ⁴ B-U ⁸ X ⁴ Y ²
著者標目	*Mill, John Stuart, 1806-1873
請求記号	J.S.Mill 8
書誌ID	1000251918

(資料番号 : B0000561049-)

の通りである⁽⁴⁾。早速、これと校正刷り製本とを比較しよう。

両者は、ともに八つ折り本で、外観上は同じに見える。しかしながら、ページ数や折記号に着目するとその差は

歴然である。『自伝』初版には、校正刷り製本には存在しない目次ページと広告ページとが追加されている。両者は、比較の結果、全くの別物であることが明らかとなる。

2 ミル『自伝』各種草稿

では次に、この校正刷り製本はどのようにして生まれたのか、それを考察しよう。

J・S・ミル『自伝』作成の経緯は、『ミル全集』第一巻「序論」⁽⁵⁾、あるいはシュティリンジャー (Jack Stillinger) 「J・S・ミル『自伝』を書いたのは誰か」⁽⁶⁾などに説明がある。それらを簡単に紹介してみよう。

ミルは、一八七三年五月七日、アヴィニヨンで亡くなる。その五か月と一〇日後の一八七三年一〇月一七日、Longmans, Green, Reader, and Dyer 社から『自伝』が出版される (Stillinger, p. 193.)。この『自伝』の基礎となった原稿として、少なくとも次の四つが知られている (CW. 1, pp. xix-xx. 表5を参照せよ)。

ミルの逝去後、これら最初の① Early Draft (第一原稿と表記) と② Columbia MS (コロンビア草稿と表記)

は他の遺産とともに、彼の妻ハリエット・テラー・ミル (Harriet Taylor Mill. 1807-1858) の娘であったヘレン・テラー (Helen Taylor. 1831-1907) に遺産相続された。そして、ヘレンが没した後は、①、②と③ Rylands transcript (ライランズ翻刻と表記) は、ヘレンの姪メアリー・テラー (Mary Taylor. 1864-1918) が相続した。メアリーは、ハリエットの息子アルジャーノン (Algernon Taylor. 1830-1903) の娘である (CW.12, p. xviii. Hayek, Family Trees, p. 270.)。さらに、メアリーが亡くなるとそれら遺稿は、遺言執行者 (ナショナル・プロビンシャル・バンク社 National Provincial Bank, Limited) によって一九二二年三月、サザビーズの競売にかけられることになった。これらミルとヘレンの遺稿が含まれていたサザビーズ品番七二〇は、古書籍商マッグズ・ブラザーズ (Maggs Bros.) に売却された。そしてマッグズ・ブラザーズは、この三つの原稿をばらばらに転売していった。ミルとヘレンの『自伝』関連資料は、表6のような推移と分散を辿ることとなる (CW. 1, pp. xviii-xx. CW. 12, pp. xviii-xxiv.)。

さらに、ミルおよびヘレンの遺産の分散・散逸状況は、

表 5 ミル『自伝』草稿 4種

『自伝』草稿	作成者	作成時期	分量	所蔵機関
① Early Draft (「第1原稿」)	ミル直筆 ハリエットの 書き込み	1853年後半の数か月から1854年 初めの数か月の間に脱稿	169葉。	イリノイ大学図書館 University Library of Illinois at Urbana-Champaign. Hollander, Jacob H. (1871-1940) — Collection.
② Columbia MS (「コロンビア草稿」)	ミル直筆	1869年から1870年までには脱稿	①の改訂原稿、162葉。	コロンビア大学図書館 Columbia University Library
③ Rylands transcript (「ライランズ翻刻」)	大半はヘレン の筆跡	ミルが没した1873年5月7日か らおよそ7月までの間に翻刻	②の翻刻原稿、282葉。	ライランズ大学図書館 John Rylands University Library
④ Yale fragment (「イェール断片」)	ミル直筆	1861年よりも後の時期に執筆	上の3つとは独立した 4ページ。	イェール大学図書館 Yale University Library

表6 ミル『自伝』草稿の競売とその後の推移

1872年2月14日	ミルは、総遺言執行者にヘレン・テラーを任命する。
1873年5月8日	ミル死去。 遺産はヘレン・テラーが相続。ミルの旧蔵書や文書類の大部分は、アヴィニヨンの別荘にあったと思われる（Hayek, Dispersal, p. 292.）。ヘレンは1904年まで、この別荘に居住。
1904年	メアリー・テラーとその友人は、ぼけ始めていたヘレンを肚黒いフランス人召使からの危難から救出して、イギリスへ連れ帰る。
1905年2月	メアリー・テラーの友人たちはアヴィニヨンに向かい、その家財を清算する。1トンもの書簡が分類されて、あらゆる種類のごみが有用物から分別され、書籍は選別され、販売用に整理が行われ、そして18箱が梱包された（Hayek, Dispersal, p. 292.）。
1905年5月21、23、24、26、27、28日	ミルのかなりの旧蔵書と文書類がアヴィニヨンで開催された販売会で売却される。
1905年9月21日	草稿類のいくつかは、アヴィニヨンの書籍商ロマニーユ（Romanille）が購入。ロマニーユから次に、ハーバード大学のアメリカ人学者ジョージ・ハーバート・パーマー（George Herbert Palmer）と、ロンドンの聖職者（氏名不詳）が購入 ⁽⁷⁾ 。 ヘレンは、ミルの旧蔵書およそ2000冊をサマービル・カレッジに寄贈（Hayek, Dispersal, p. 294.） ⁽⁸⁾ 。
1907年1月29日	ヘレン死去。 ミルとヘレンからの遺産はヘレンの姪メアリー・テラーが相続。
1918年11月6日	メアリー死去。 ナショナル・プロビンシャル・バンク社（National Provincial Bank, Limited）が総遺言執行者に任命される。 同社は、遺産の原稿や草稿類を専門家に鑑定させる。
1922年5月	ナショナル・プロビンシャル・バンク社は、サザビーズで、1回目の競売（ミルたちの遺稿の一部である『自伝』関連資料の品番は720）を行う。購入者は、マッグズ・ブラザーズである（CW. 1, p. xix.） ⁽⁹⁾ 。
1923年	①第1原稿：マッグズ・ブラザーズからホルンダー（Jacob H. Hollander）が購入。ホルンダーの没後、①第1原稿は、およそ20年間、バルチモアの倉庫に保管される。 ②コロンビア草稿：マッグズ・ブラザーズからコス（Jacob Coss）が購入後、1923年4月、コロンビア大学に寄贈。 ③ライランズ翻刻：マッグズ・ブラザーズから氏名不詳のイギリス人が購入。その後は1959年7月まで所在不明。
1927年8月	ナショナル・プロビンシャル・バンク社は、サザビーズで、2回目の競売を行い、残りの遺産を売却する。（MacMinn, p. xi.）
1958年	①第1原稿をイリノイ大学が入手。
1959年7月30日	③ライランズ翻刻：古書籍商メサズ・ホジソン（Messrs. Hodgson）のロンドン競売場にて発見され（品番244）、ライランズ図書館がそれを購入 ⁽¹⁰⁾ 。
不明	④イエール断片：イエール大学。〔入手経緯は不明〕 ⁽¹¹⁾

次の図3のようになる。⁽¹²⁾

ミル『自伝』の作者は誰か、という問に答えることは容易ではない。①第一原稿は、ミル直筆の原稿であるが、ハリエット・テラーと結婚するまでが記述されている。この後、ハリエットが原稿を読み、内容に疑問符を付けていく。ミルは、ハリエットの疑問符に答える形で①第一原稿を改訂して、②コロンビア草稿を完成させる。

ミルの逝去後、ヘレンが中心となって、『自伝』出版用原稿を準備する。ヘレンは、ミルの妹メアリー・エリザベス・コールマン (Mary Elizabeth Colman) や氏名不詳のフランス人と一緒に、ミルによる改訂原稿②コロンビア草稿を翻刻・転記していく。それが③ライランズ翻刻である。ただし、③ライランズ翻刻は、②コロンビア草稿の忠実な再現ではなく、一部に改変が加えられているほか、転記の際の誤記なども含まれている。この③ライランズ翻刻こそが『自伝』出版の印刷原稿となっていく。これが印刷元に送られ、校正刷りが作成される。この校正刷りの作成段階で、印刷工が③ライランズ翻刻とは異なる形で植字を行ったものもあったという。そしてヘレンは、校正の段階で本来は③ライランズ翻刻と異

図3 ミルおよびヘレンの『自伝』草稿の分散

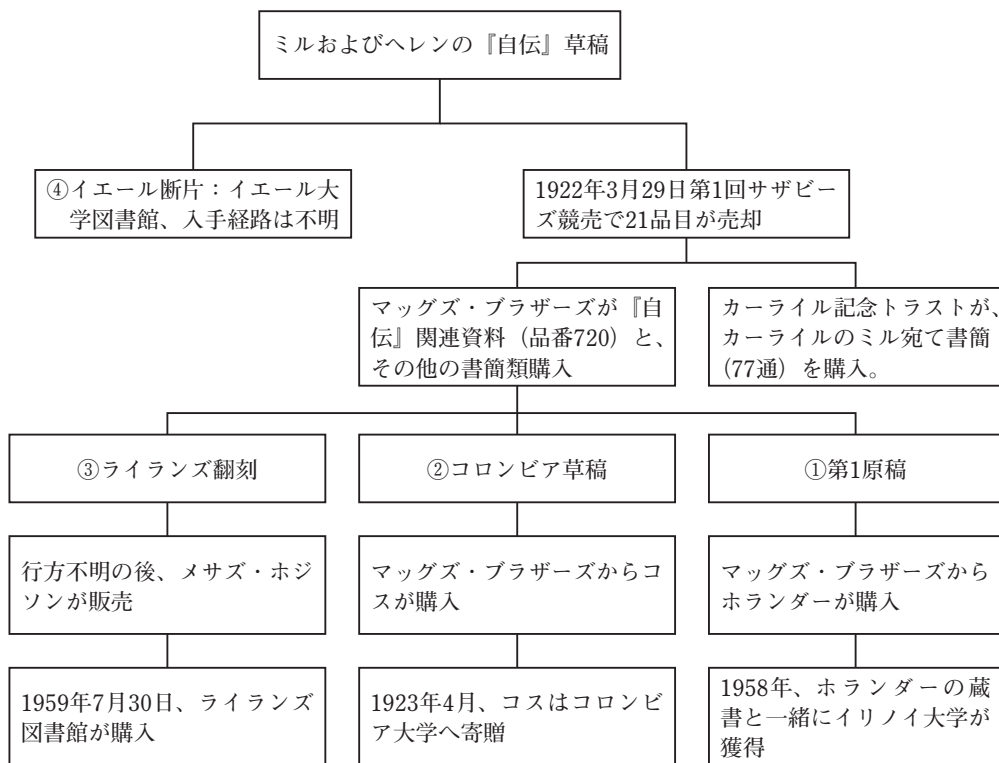
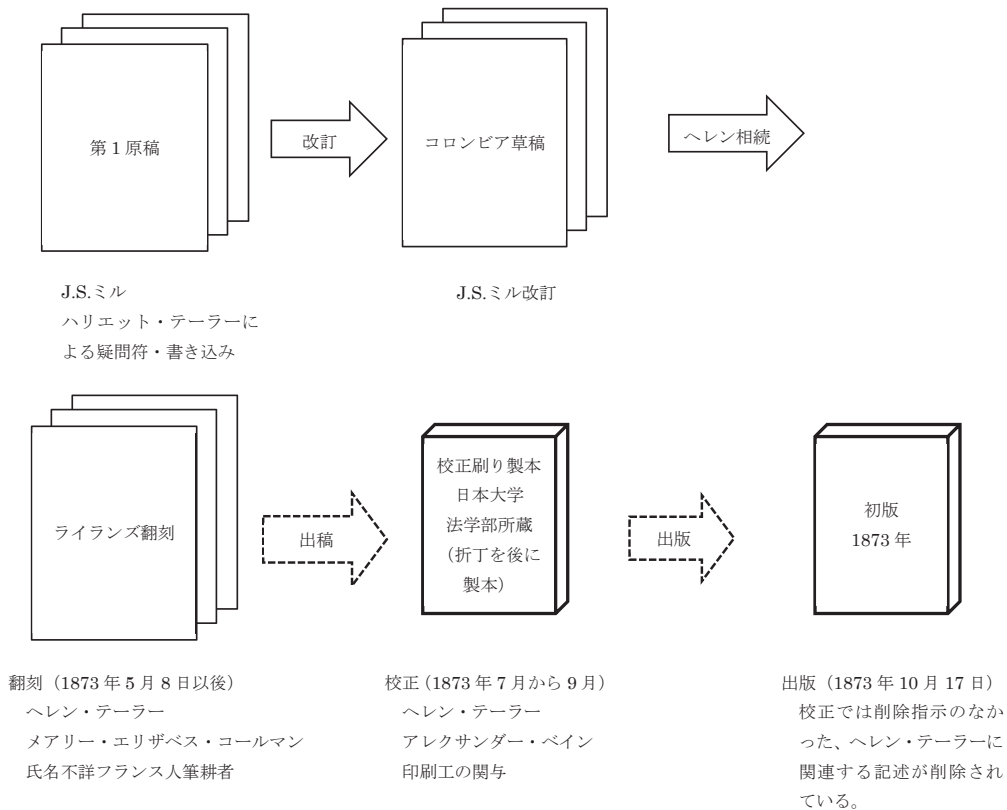


図4 初版出版の流れ ※出版には少なくとも7人が関与



なる個所を校正すべきであったものを校正し忘れると同時に、これとは別にさらに③ライランズ翻刻と異なる変更が加えられていくのである。また、その校正を手伝ったのがミルの友人でもあったアレクサンダー・ベイン (Alexander Bain, 1818-1903) である。最終的に、校正後も、句読法、スペル、大文字使用、そして単語の区切りに関する変更・相違が生き延びてしまい、初版の出版となるのである。シュティリンジャーはこうして『自伝』の作者として、ミル、ハリエット、ヘレン、メアリー、氏名不詳のフランス人、印刷工、ベインを挙げることになるのである (Stillinger, 1998, pp. 193-195)。

3 主にヘレンによる『自伝』校正

②コロンビア草稿には、「本人によって書かれたJ・S・ミルの自伝、わが死後一年以内に変更、省略することなく出版すべきこと。ヘレン・テラー」というヘレン直筆の書き込みがあるところ (CW.1, p. 2)。このことは、ミルが自分の用意したコロンビア草稿通りに『自伝』を出版したいと願っていたことを表している。だがヘレンは、前述のように、彼の遺志に反して、変更、さ

表 7 筆跡の比較

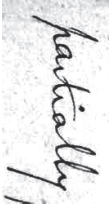
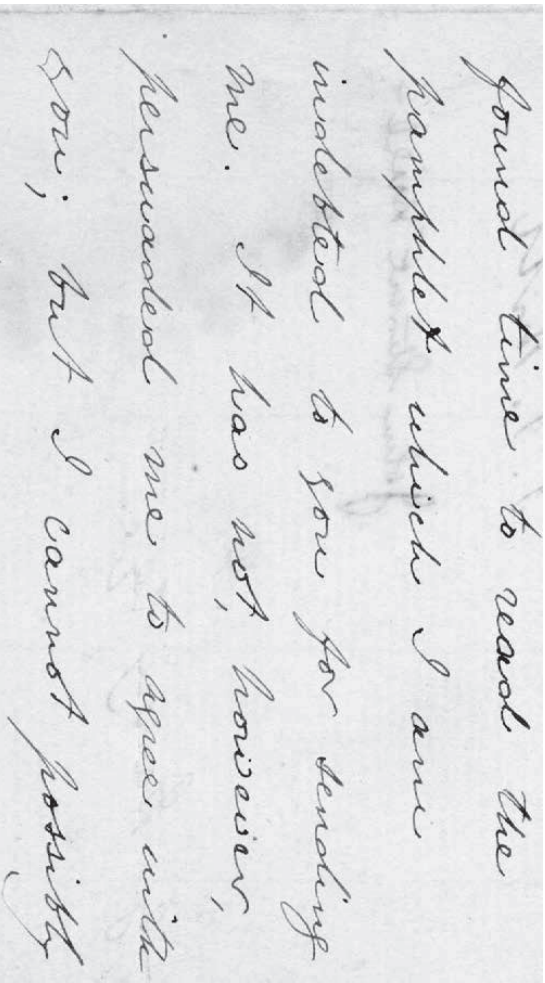
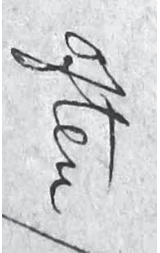
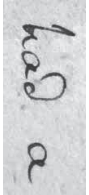
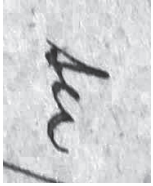
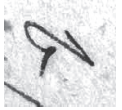
<p>『自伝』校正刷り製本における校正指示の一部画像</p>	<p>日本大学図書館所蔵 書簡 [Letter] 1866 May 21, Blackheath Park, Kent, [to] G. Harvey / J. S. Mill の一部画像</p>
<p> p. 30. p : partially</p>	<p></p>
<p> p. 31. f : often</p>	
<p> p. 34. h : had</p>	
<p> p. 37. s : su</p>	
<p> p. 59. b</p>	

表 8 校正刷り製本から初版への変化

校正刷り製本における指示		初版本文	
p.19. 1.12.	operation to ペン書き to を in へ	p.19. 1.12.	operation in
p.21. 1.12 f. b. *	trace of 鉛筆書き of を to へ	p.21. 1.12 f. b.	trace to
p.263. from 1.11 to p.264. 1.10.	my step-daughter. Miss Helen Taylor, the inheritor of much of her wisdom, and of all her nobleness of character, whose ever growing and ripening talents from that day to this, have been devoted to the same great purposes, and have already made her name better and more widely known than was that of her mother, though far less so than I predict, that if she lives, it is destined to become. Of the value of her direct co-operation with me, something will be said hereafter : of what I owe to her great powers of original thought and soundness of practical judgment I can give no adequate idea. Surely no one ever before was so fortunate, as, after such a loss as mine, to draw another prize in the lottery of life, another companion, stimulator, and adviser, of the rarest quality. Whoever, either now or hereafter, may think of me and of the work I have done, must never forget that it is the product not of one intellect and conscience, but oft three, the least considerable of whom, and above all the least original, is the one whose name is attached to it. 校正 (削除) の指示なし	p.263. from 1.11 to p.264. 1.5.	my step-daughter, * * * * * whose ever growing and ripening talents from that day to this have been devoted to the same great purposes. * * * * *
p.289. from 1.9 to 1.8 f. b.	but the sobriquet of “the stupid party” which stuck ペン書き sobriquet を斜字体へ、party の後に「」を追加	p.289. from 1.9 to 1.10 f. a.	but the sobriquet of “the stupid party” stuck 校正指示とは異なり、「」は追加されず、which を削除
p.292. headline	校正の指示なし		PARLIAMENTARY LIFE 校正指示はなかつたが、校正
p.292. 1.2 f. b.	defending the Bill 鉛筆書き defending を defeating へ	p.292. 1.12 f. b.	defending the Bill 校正指示とは異なり、変更されず

※ f. b. : from bottom

らには省略を加えた『自伝』の出版を行う。なぜ、ミルの遺志に反したのかは、今日では知るすべがない。しかしながら、日本大学法学部図書館が所蔵している『自伝』初版校正刷り製本は、その校正過程を限定的ながらも明らかにしてくれる貴重な資料となっている。

日本大学法学部図書館は、ヘレン筆跡のミルの書簡（一八六六年五月二一日付け、G. Harvey 宛て）を所蔵している。¹³このヘレンの筆跡と、校正指示の筆跡とを比較してみよう（表7を参照せよ）。

ここで使用されているアルファベットのうち、p、f、h、s、bに注目してみよう。筆者の素人鑑定ではあるが、これらの筆跡は同一人物のものだと判断される。この校正はもっぱらヘレンが行ったと解してよいであろう。

前掲の表2、表3から、ヘレンたちは、ミルが亡くなった一八七三年五月八日以降、鋭意、ライランズ翻刻の準備にあたった。ミルの没後二か月には校正刷りができあがっていることになる。その校正箇所を個別に示したものが表8である。ここでは紙幅の関係もあり、その校正が膨大な量であるので、最初の数ページと、初版で「* * *」という星印によって示された削除部分の

一つについて掲載してある。

これらの結果、次のことが判明する。

1. ヘレンによる校正の指示はペン書きが多いが、中には鉛筆書きのものもある。
2. ヘレンによる校正の指示があっても、それが初版本文に反映されなかった箇所が存在している。
3. また逆に、——ヘレンに関連する記述と同様——ヘレンによる校正の指示がなくても、校正がなされている箇所も存在する。
4. 校正刷りには、当初、ヘレン・テラーに関連する記述が含まれていた。校正段階でも、削除 (delete) の指示は記されていない。しかし、初版の印刷時点では「* * *」という星印の形で削除・省略されている。

こうしたことから、この校正刷りは『自伝』の初校であると思われる。しかしながら、これとは別に『自伝』の再校、三校が存在するのかが不明である。

4 おわりに

日本大学法学部が所蔵するミル『自伝』初版校正刷り製本は、一九八二年に本学が所蔵した後、三〇年以上が

経過しており、この間、その存在は忘れられていたといつてよい。どのような経路をたどって本学の所蔵となったのか、あるいは購入時の経緯はどうであったのか、それらの記録は残されていない。だが、これまでの検討の結果、この初版校正刷り製本は、シュティリンジャーの主張を裏付けるものとなっている。とりわけ初版で「* * *」とされた部分が、印刷の最終的な段階で削除されたことが判明したことは注目すべきである。

ミルやヘレンの遺産は、二〇世紀以降、分散していく¹⁴。もともと、この校正刷りは誰の所有物であったのか（校正後、ヘレンの所有に帰したのか、あるいは印刷業者が所有していたのか）。製本は誰の指示によるものなのか（ヘレンの指示なのか、他の所有者の指示なのか）。ヘレンの遺産の中に、本書の存在やその校正に言及するものがあるのかどうか、疑問はつきない。ハイエクは、一九二二年および一九二七年のサザビーズの競売に関して、「大英博物館図書館にあるこれ〔第一回〕と第二回の販売に関する注釈つきカタログを参照せよ」と記している（CW, 12, p. xxii.）。また、マッグズ・ブラザーズ¹⁵も、販売用のカタログを作成している。従って、これら

のカタログを詳細に調査すれば、日本大学法学部が所蔵するミル『自伝』初版校正刷り製本が、あるいは掲載されているのかもしれない。しかしながら、それらの疑問の解決は、他日の課題である。

- (1) 日本大学法学部図書館「著名学者書簡コレクション」、そして日本大学法学部図書委員会『日本大学法学部創設百二十五周年記念特別展示会図録』、二〇一四年（非売品）は、

<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collectionpack/index.html>

<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/125th.html> で閲覧が可能である（二〇一六年六月現在）。

- (2) 川又祐、江島泰子、藤原孝、山口正春、Th. Lockley『ヨーロッパ政治経済思想の系譜——日本大学法学部図書館所蔵 H. Grotius、D. Hume および J.S. Mill の書簡を中心として』、二〇一五年（非売品）。これら貴重な書簡類は、<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collectionpack/index.html> で閲覧が可能である（二〇一六年六月現在）。
- (3) この書き込みが行われた時点では、欠落折丁（H2）と欠落ページ（九九、一〇〇ページ）は一葉のみだったのかもしれない。
- (4) 前述のように、ミル『自伝』初版（一八七三年）に

は二種類がある。正誤表 (Erratum: Page 113, line 9, for “effect me,” read “effect on me.”) がついているもの(二刷り)と、ついでいないもの(一刷り)である。もちろん、今回購入されたものは一刷りである。正誤表つきの『自伝』(一八七三年)は、日本大学商学部図書館が所蔵している(資料番号: C00177136)。さらに商学部図書館は『自伝』第二版(一八七三年)を所蔵している(資料番号: C00177137)。『自伝』第二版は、初版と刊行年は同じであるが、「第二版」が表題ページに明示され、さらに索引が付けられている。当然に、“effect on me”と直され、正誤表は削除されている。

(5) Ed., John M. Robson, Jack Stillinger. Introduction, : *Autobiography and Literary Essays by John Stuart Mill. Collected Works of John Stuart Mill*. Vol. 1. University of Toronto Press. Routledge & Kegan Paul. 1981. vii-lix. *など* CW.1と略す。

(6) Stillinger, Jack. “Who Wrote J. S. Mill’s Autobiography?” : *John Stuart Mill’s Social and Political Thought. Critical Assessments*. Edited and with a new introduction by G. W. Smith. Vol. 4. *Method, Life, Feminism, Culture*. Routledge. London and New York. 1998. pp. 93-208.

(7) ハイエクによると、一九〇五年の販売会後、ロマネエから詩人ポール・マリエトン (Paul Marieton) が書籍

ヘレン・テラーとJ・S・ミル『自伝』(川又)

を購入。これらの書籍はアヴィニヨンの図書館に遺贈されたという話があるが、ハイエクはこれを事実とは考えていない (Hayek, *Dispersal*, p. 293.)。

(8) ミル旧蔵書の寄贈によって形成された“John Sturat Mill Library”については、<http://www.some.ox.ac.uk/library-it/special-collections/>を参照せよ(二〇一六年六月現在)。

また、ハイエクの記述によれば、晩年のヘレンは、ぼけて、記憶を失った状態にあり、メアリーがすべての面倒を見ていたようである。メアリーは、ジョン・モーリー (John Morley.1838-1923) の助言により、ロンドンに保管されていたミルとヘレンの蔵書をサマービル・カレッジへ寄贈した。メアリーは蔵書を数冊手元に残すものの、彼女が残すことを望まなかった蔵書は、サマービル・カレッジにそれを処分する権限を与えた。サマービル・カレッジは、一九〇六年、実際に蔵書の一部を売却した (CW. 12, pp. xix-xix.)。

(9) ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) 図書館の次のウェブページ (Mill-Taylor Collection) によると、マッグズ・ブラザーズは、一九二二年の競売で『自伝』関連資料以外にも書簡類を購入している。マッグズ・ブラザーズは、それら書簡類をトラウトの業者 (the firm of Trout、詳細不明) に転売した。LSE図書館は、一九二六年にそれらの一部を購入した。また、それらの

五五(八七九)

一部はケインズが購入しており、残りの書簡類は四散しているという。

<http://archives.lse.ac.uk/Record.aspx?src=CalmView.Catalog&id=MILL-TAYLOR> (閲覧 二〇一六年六月現在)

(10) ライランズ翻刻の発見の経緯は、フランク・テラー (Frank Taylor, pp. 218-219)、『ステイリンジャー (1960, pp. 223-224)』そしてロバートソン (Edward Robertson) の各文献を参照せよ。

(11) イェール大学図書館は、ミルの書簡を中心とする『John Stuart Mill Papers (MS 350)』を所蔵している。このコレクションについては、次のウェブページを参照せよ。<http://hdl.handle.net/10079/fa/mssa.ms.0350> (閲覧 二〇一六年六月現在)

(12) ハイエクは、『Introduction』と『The Dispersal』においてケインズによるミル資料の獲得時期について、前者『Introduction』においては、一九二七年と記しており、後者『The Dispersal』においては、一九二二年と記している。ケインズは複数回、ミル資料を購入したのかもしれない。さらに、ケインズが所有していたミル資料は、注(8)で示したLSE図書館ウェブページの記述によれば、ケインズの没後キングズ・カレッジからLSE図書館に寄贈されたということである。だがその一方、キングズ・カレッジ図書館のウェブページによると、「ケイン

ズによるニュートン、ベンサム、ジョン・スユアート・ミルなどの手稿類コレクションは、モダン・アーカイブ・センターに所蔵されている。」とあるので (ケインズコレクション: <http://www.kings.cam.ac.uk/library/special-collections.html>) (閲覧 二〇一六年六月現在)、『ミル資料がすべてLSE図書館に寄贈されたわけではなさそうである。

(13) 本書簡は、日本大学法学部図書館「著名学者書簡コレクション」<http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collectionpack/j-s-mill/15.html>で閲覧可能である (二〇一六年六月現在)。

(14) 二〇一四年に関西学院大学 (編者、井上琢智) からミルの『フランス日記』が刊行されている。

(15) 九州大学図書館は、『マッグズ・ブラザーズのカタログを所蔵している』。Rare and interesting autograph letters signed documents manuscripts, etc. 1923. No. 445. このカタログには、ミルの自筆・自署書簡 (二七三二番から二七三三番) が掲載されている (pp. 178-179)。

参考文献

- Collected Works of John Stuart Mill*. Vol. 1, 12. 『ミル全集』は、CWと略つづる。
- Hayek, F. A. "Introduction.": *Collected Works of John Stuart Mill*. Vol. 12. Edited by Francis E. Mineka. University of Toronto Press. Routledge & Kegan Paul.

- London. 1963. pp. xvxxiv. 「序論」執筆は一九六二年一月。
- Hayek, F. A. "The Dispersal of the Books and Papers of John Stuart Mill.": *The Collected Works of F. A. Hayek*. Vol., 16. *Hayek on Mill. The Mill-Taylor Friendship and Related Writings*, ed. by Sandra J. Peart. Routledge. London. 2015. pp. 293-297. 執筆は一九四四年七月。
- Hayek, F. A. "Appendix III. Family Trees.": *The Collected Works of F.A. Hayek*. Vol., 16, p. 270.
- MacMinn, Ney, Hains. J. R., McCrimmon, James MacNab. *Bibliography of the Published Writings of John Stuart Mill Edited from his Manuscript with Corrections and Notes*. AMS Press. New York. 1945.
- Maggs Bros. *Rare and interesting autograph letters signed documents manuscripts, etc.* No. 445. 1923. (九州大学図書館所蔵)
- Mill, John Stuart. *Autobiography*. London. Longmans Green, Reader, and Dyer. 1873. <レン・テラー初版校正刷り製本 (日本大学法学部図書館所蔵)。
- Mill, John Stuart. *Autobiography*. London. Longmans Green, Reader, and Dyer. 1873. (初版一刷の'日本大学法学部図書館所蔵)
- Mill, John Stuart. *Autobiography*. London. Longmans Green, Reader, and Dyer. 1873. (初版一刷の'日本大学商学部図書館所蔵)

<レン・テラーとJ・S・ミル『自伝』(川又)

- Mill, John Stuart. *Autobiography*. London. Longmans Green, Reader, and Dyer. 1873. (第二版'日本大学商学部図書館所蔵)
- Robertson, Edward. "Sought-For Manuscript Comes to Light.": *Manchester Guardian*, 19 August 1959, p. 5. (筆者未見)
- Stillinger, Jack. "The text of John Stuart Mill's autobiography.": *Bulletin of the John Rylands Library*, Vol. 43(1). 1960. pp. 220-242. 本稿は' <https://www.escholar.manchester.ac.uk/api/datastream?publicationPid=uk-ac-man-scw:Im2859&datastreamId=POST-PEER-REVIEW-PUBLISHERS-DOCUMENT.PDF> (閲覧可能)。(二〇一六年六月現在)。
- Stillinger, Jack. "Who Wrote J. S. Mill's Autobiography?": *John Stuart Mill's Social and Political Thought. Critical Assessments*. Edited and with a new introduction by G. W. Smith. Vol. 4. *Method, Life, Feminism, Culture*. Routledge. London and New York. 1998. pp. 193-208.
- Inoue, Takutoshi. *J. S. Mill's Journal and Notebooks of a Year in France May 1820-July 1821. A Complete Edition with a Facsimile Reprint of the Rediscovered Notebook of John Stuart Mill in Kwansei Gakuin University and Transcribed Text, Annotation and Comparative Studies. Historical Archives: Primary Sources from Kwansei*

五七 (八八一)

Gakuin University, Series I. Rouledge. London and New York. 2014.

Taylor, Frank; Matheson, Glenis. "Hand-list of Additions to the Collection of English Manuscripts in the John Rylands University Library, 1952-70." : *Bulletin of the John Rylands Library*. Vol. 60 (1). 1977. pp. 213-267. 本稿は、<https://www.escholar.manchester.ac.uk/uk-ac-man-sew:1m1798>に閲覧可能である。(二〇一六年六月現在)。

川又祐、江島泰子、藤原孝、山口正春、Th. Lockley『ヨーロッパ政治経済思想の系譜——日本大学法学部図書館所蔵 H. Grotius、D. Hume、および J.S.Mill の書簡を中心とした』、二〇一五年 (非売品)。

日本大学法学部図書館委員会『日本大学法学部創設百二十五周年記念特別展示会図録』、二〇一四年 (非売品)。
ミル書簡 (本文はくハンの筆跡) [Letter] 1866 May 21, Blackheath Park, Kent, [to] G. Harvey / J. S. Mill (日本大学法学部図書館所蔵)

Summary

The Editing of J. S. Mill's *Autobiography* by Helen Taylor

Professor Hiroshi Kawamata, Nihon
University College of law

Nihon University College of Law Library (NUCLL) has a collection of John Stuart Mill works. The collection, including many autographed letters and works, is very rare and valuable. Among them, NUCLL houses two first edition copies of his *Autobiography* of 1873. However, one of these is not actually a real first edition, but a proof copy of *Autobiography* (a bound volume). It is on the proof sheets that Mill's stepdaughter Helen Taylor made numerous corrections. This volume demonstrates her proofreading process.

1. Sometimes Taylor's correction is by pen, at other times in pencil.
2. Taylor's corrections have sometimes been ignored and the text remains unchanged.
3. On occasion, the texts are corrected without Taylor's correction.
4. The texts about Helen Taylor are deleted in the printing stage.